

三河の昆虫

No. 3 1973年5月

〒448 刈谷市井ヶ谷町
愛知教育大学昆虫研究室内
三河昆虫研究会 発行
第一プリント社 印刷
☎◀56▶②4463

》私の主張《

子どもの心

太田鉄男

昨年の夏、友人からこんな話を聞きました。ある子どもが、カブトムシをデパートで買ってもらいましたが、3日ほどすると、そのカブトムシは死んでしまいました。ところが、その子は、なぜカブトムシが動かなくなったのかわかりません。そこで、その子は母親に、動かないカブトムシに乾電池を入れてほしいとたのんだところ、その時母親は、こわれぬカブトムシだと言って、乾電池で動く玩具を買い与えたそうです。

話を聞き終った時、心の痛みとやりきれない怒りをおぼえました。生命の大切さと神秘を教えずにやらなかった母親、弱くて小さな生命と自然を平気で売買する大人、営利のためなら子どもの心など考えない企業などがはん濫しています。こんな環境の中で、生命を尊ぶ純真な心や、正しく科学的に見つめる目が育つでしょうか。

子どもの心は、本来純真なものであり、その目は、何事も見逃さない鋭い力を持っているはずです。この様な子どもたちが、素直に成長できる環境を保護したり、作り出すことが大人の使命ではないでしょうか。私は、何をなすべきかを見極め、子どものために、小さな第一歩を踏み出したいと思います。

三河地方で採集した珍しい甲虫

山崎隆弘

ここ数年(1966~1972)、三河地方を中心にして松野更一氏らと甲虫類の採集を行ってきたが、その中には比較的珍しいもの、記録しておいた方がよいと思われるものが若干見出されたので、それらについて報告したいと思う。

学名は北隆館の原色昆虫大図鑑(Ⅱ)に従い、

採集者については、松野更一(MK)、山崎勝次(YK)、山崎尚之(YN)、山崎隆弘(YT)とし、採集年月日の次の()の中には頭数を示した。

1. *Nipponodorcus montivagus* Lewis ヒメオオクワガタ(MK); 段戸山, 15. VII. 1971(2)(MK); 段戸山, 16.

- VIII. 1972(2)(MK)。
2. *Macrodorcas binervis* Motschulsky スジクワガタ
段戸山, 18. VII. 1971(1)(MK); 段戸山, 15. VIII. 1971(1)(MK)。
3. *Aegus laevicollis* Saunders ネブトクワガタ
豊川, 17. VIII. 1972(1)(MK)。
樹液に來たものを採集した。
4. *Geotrupes auratus* Motschulsky オオセンチコガネ
本宮山, 9. V. 1966(1)(YK)
原型の金赤色をしたものである。
5. *Onthophagus tricornis* Wiedemann ミツノエンマコガネ
蒲郡, 5. VI. 1972(1)(YT); 蒲郡, 21. VI. 1966(2)(YT); 蒲郡, 23. VI. 1972(1)(YT); 蒲郡, 29. VI. 1968(1)(YT); 蒲郡, 12. VIII. 1971(3)(YT); 蒲郡, 31. VIII. 1967(1)(YT); 蒲郡, 31. VIII. 1968(2)(YT)。
蒲郡地方では他にも多数の採集例があり、本種の分布や生態は興味がある。上記の個体は、いずれも燈火に飛來したものを採集した。また水銀灯などの下にある1cmくらいの穴から発見されることが多い。市街地で採集できる。
6. *Aphodius elegans* Allibert オオフトホシマグソコガネ
本宿, 8. V. 1966(1)(YK)。
カドマルエンマコガネやクロマルエンマコガネなどに混って採集された。
7. *Granida albolineata* Motschulsky シロスジコガネ
渥美蔵王山, 24. VI. 1972(4)(MK); 蒲郡, 19. VII. 1966(1)(YK)。
いずれも海岸地帯の燈火に飛來したものを採集した。
8. *Anomala albopilosa* Hope アオドウガネ
渥美蔵王山, 24. VI. 1972(4)(MK)。
暖地ではきわめて普通の種であるが、年によって非常に少なくなることがある。
9. *Rhomborrhina polita* Waterhouse クロカナブン
豊川, 17. VIII. 1970(1)(MK); 石巻山, 14. VIII. 1971(1)(MK); 豊川, 17. VIII. 1972(5)(MK)。
- K)。
三河地方では数が少ない。いずれも8月に採集されている。
10. *Protaetia lenzi* Harold キョウトアオハナムグリ
宮地山, 4. VI. 1971(2)(MK)。
伊藤昭博氏によると、石巻山ではクヌギの樹液に來たものを採集されたそうである。
11. *Nipponobuprestis amabilis* Snellen van Vollenhoven アオマダラタマムシ
鳳来寺山, 30. V. 1966(1)(YT)。
飛翔中のものをネットで採集した。筆者は1966年に猿投山で採集したこともある。
12. *Colaulon miyamotoi tsukamotoi* kishii オオハマベヒメサビキコリ
三河大島, 1. VI. 1969(1)(YT)。
最近は、海浜性昆虫の生息に適した場所も、護岸工事のため少なくなってしまった。三河大島では、わずわではあるが自然のまま残されている。
13. *Paracalais larvatus pini* Lewis フタモンウバタマコメツキ
石巻山, 25. VI. 1972(1)(MK)。
分布上注目される種である。石巻山ではまれに採集されている。
14. *Luciola cruciata* Motschulsky ゲンジボタル
蒲郡, 18. VI. 1971(6)(YT)。
一時は絶滅しかけていたが、最近はずかながらふえている。
15. *Rodolia cardinalis* Motschulsky ベタリアテントウ
三河大島, 23. VIII. 1971(1)(YT)。
カイガラムシの重要な天敵である。蒲郡でもまれに採集できる。
16. *Amida tricolor* Harold アミダテントウ
大入溪谷, 3. V. 1969(1)(YT)。
三河国定公園調査報告によると、幡豆沖、島ではトベラの木に多いとしている。本種は奥三河で採集されたのは、これが最初であると思われる。
17. *Aiolocaria mirabilis* Motschulsky カメノコテントウ

- 本宮山, 9. V. 1966(1)(YT)。
三河地方には少ない種である。
18. *Megasemum quadricostulatum* Kraatz オウクロカミキリ
段戸山, 15. VIII. 1972(1)(MK)。
燈火に飛来したのを採集した。
19. *Strangalia takeuchii* Matsushita et Tamanuki タケウチホソハナカミキリ
段戸山, 3. VIII. 1967(1)(YT); 段戸山, 30. VI. 1972(2)(MK)。
コウヤホソハナカミキリに混って採集された。三河地方ではきわめて少なく、段戸山のみで採集されている。
20. *Margites fulvidus* Pascoe キイロミヤマカミキリ
蒲郡, 4. I. 1967(2)(YN)。
南方系のカミキリである。冬期朽木中より採集された。松野更一氏も石巻山で採集している。
21. *Chelidonium quadricolle* Bates アオカミキリ
宮地山, 4. VI. 1971(1)(MK)。
22. *Rhaphuma diadema* Motschulsky クロトラカミキリ
石巻山, 18. VI. 1972(1)(MK)。
23. *Rhaphuma quinquefasciata* Castelnau et Gory ヨツスジトラカミキリ
篠島, 31. VIII. 1966(1)(YT)。
三河地方での採集例はきわめて少ない。飛翔中のものを採集した。
24. *Parechthistatus grossus* Bates セダカコブヤハズカミキリ
段戸山, 31. VII. 1965(1)(YT)。
三河地方では、段戸山付近のみで発見されている。
25. *Paraglenea fortunei* Saunders ラミカミキリ
石巻山, 27. VI. 1971(1)(MK)。
以上の25種をここに報告した。この中には、分布的にみて、また地方によっては珍らしくないものもあると思われるが、三河地方も最近になって著しい自然環境の変化を受けており、ごくありふれたものも、次第に姿を消しつつあり珍種になりつつある。普通種でも、こうしたものはこの中に含めておいた。
過去に、三河地方において珍種として記録のあったシロヘリハンミヨウ(篠島)、カワラハンミヨウ(伊良湖)、フタオビミドリトラカミキリ(幡豆沖ノ島)、ミツギリゾウムシ(鳳来寺山)、オオチャイロハナムグリ(三河川合)などについては努力して採集に努めたが、大多数のものは再び確認することができなかった。ただ、ミツギリゾウムシについては、長野県平岡市で1967年6月11日に山崎尚之氏が採集している。その他、アマダテントウ(幡豆沖ノ島)とヨツスジトラカミキリ(佐久島)は、筆者によって前種は大入溪谷で、後種を篠島で採集され、分布を確認することができた。三河地方で記録のある珍種のオオシマホソハナカミキリ、(段戸山)については、穂積俊文氏が佳香蝶でのべておられるように、筆者も当種はタケウチホソハナカミキリのことだと思う。
ここに、報告した全種については、すべて筆者と松野更一氏が保管している。なお、この報文を草するにあたり、採集記録を提供して頂いた松野更一氏、筆者の弟の山崎勝次と尚之の両氏に対して心から感謝の意を表する。

アゲハの食草

桜井邦雄

1972年の夏、私は飼育に使うために育てていたミカンの葉に多くのアゲハの幼虫がついているのを見つけました。ミカンの木はまだ一匹の幼虫を育てるのも困難なほど小さく、このまま放ってお

いても全絶は目に見えていたし、ミカンも枯れる恐れがあるので、かわいそうでしたがみんな木からはらい落としてしまいました。

2, 3日もするとミカンの木には幼虫がつか

くなりましたが、一週間程後、私は偶然そこから1mばかり離れたマリゴールドの花に5匹の幼虫を見出しました。幼虫は主に柔かい若葉のあたりを盛んに食い荒していたのです。その後ずっと観察していると、脱皮を重ねて終令になりましたが、ちょうど蛹になると思われる頃に姿を消してしまいました。蛹化場所を求めて去ったのか、鳥に襲われたのか定かではありませんが、無事蛹になったことを願っています。

私と昆虫 —その2—

鈴木友之

私が昆虫とのつき合いの始まりは、戦後まもない頃で、そのきっかけは、今は亡き横山桐郎先生の書かれた「蟲」という題名の書物であると思っている。数十種類にわたる昆虫たちの一生についての生態面からみて書かれた文章には、大変面白く、興味深く読み返したものであり、古びた本であるが今でも大切に所蔵しています。

仕事の傍ら、昆虫採集の手引き書などを参考にして寒冷紗を買い、手縫いの捕虫網を作り、毒瓶は、空瓶を利用した。三角籠、展翅板、標本箱などは、職業柄、木で作り、ほとんどの道具類は自作品でまにあわせ、自転車で近くの山野にでかけることが多かった。

昭和28年に豊橋で開かれた昆虫展を見てからは、蝶の美しさに魅了されて、蝶類を主とした収集に変化していった。図鑑を開いては採集品の同定も楽しいものだった。五万分の1の地図を頼りに、山中で道に迷い夜遅く家に帰り、家族に心配をかけたたり、思わぬ所で道が無くなり、自転車をかついで山を越えたり、山中で腹痛で困ったこともあったりして得た教訓は、不馴れな土地で特に単身では十分な余裕あるスケジュールで慎重な行動を、という初歩的なことであった。

楽しみも多く、北遠州の水窪町の山道で待望久しかったオオムラサキの初見夢に出会い、夢中で振ったネットに、バシッと手答えのあった時、永年探し歩いても手に入らなかった珍種が採集できた日などは、一日中歩き続けた疲れなどふっとんでしまうほどであった。

アゲハは普通ミカン科のカラタチ、ユズ、サンショウを食樹としていますが、それら以外の植物（コスモスやシャクヤク）でも、自然状態で成育するものもあるそうです。マリゴールドの場合は、卵を見たことはないので、私がミカンからはらい落した幼虫の一部がそこへたどりついて成長したのでしょう。

辛かったこと、楽しかったこと、すべてがなつかしく、昨日のこのようによみがえる。

私の調査地域は非常にせまく、伊那谷に数回でかけた外には、ほとんどが日帰り可能な東三河周辺に限られている。私はそれでよいのだと思っている。

さて、身近かで忘れられない場所は、豊橋の葦毛湿原周辺の自然であるが、近年環境の悪化と、一部マニヤの乱獲（特に春のギフチョウの採集では業者と結託している感のする人や、先のことを考えないような採集）には腹が立つ



1973. 4. 19
中山部落内にて

のは私一人ではないと思うが、名案はないものだろうか。採集禁止などという事を考える前に、有効な規制を実施して、必要最小限の採集をしながら、永久に蝶の姿の絶えない楽園を築くなど夢に終らせないための努力を続けたいものです。

最後に、この道を通じて、大平先生をはじめ多くの立派な先生と、知人、友人たちと接することによって得たものを若い世代への橋渡し役にでもなれたらとひそかに願うものです。